

大阪市立茨田北中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

学校目標

- ・人権を尊重する鋭敏な精神と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを育む教育を推進する。
- ・一人一人の個性や可能性を伸ばし、生きる力を育む教育を推進する。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【視点 学力の向上】

自主学習習慣の定着は、各教科一定の取り組みと成果を得ている。しかし、平成 26 年度生徒アンケート前期結果では「学校の授業はわかりやすく楽しい。」の項目で「よくあてはまる・どちらかといえばあてはまる」の回答が 55.7% で平成 25 年度とほぼ同じ割合であった。基礎的・基本的な内容の定着に向け、少人数授業の充実を図り、授業の中で視覚機器等の活用を含めわかりやすい授業を行うことが、これからの課題である。

【視点 道徳心・社会性の育成】

道徳心・社会性の育成について、平成 26 年度生徒アンケート前期結果では「学級は違いを認め合い、個性を尊重しあう集団となっている。」の項目で「よくあてはまる・どちらかといえばあてはまる」の回答が 67.7% で平成 25 年度より約 10 ポイント上回った。「違いを認め合い、個性を尊重する集団」の育成を継続してすすめることが、今後の課題である。

【視点 健康・体力の保持増進】

平成 26 年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」において男子・女子ともに全国平均より上回ったのは 1 項目だけである。平成 25 年度と比較すると「運動やスポーツをすることは好きですか。」の項目で「好き・やや好き」と答えた男子が 8.2 ポイント、女子が 33.5 ポイント上回り、「運動やスポーツをすることは得意ですか。」の項目で男子が 2.3 ポイント、女子が 19.7 ポイント上回った。引き続き運動能力の向上を図る取組が、今後の課題である。

中期目標

【視点 学力の向上】

- ① 生徒や保護者アンケートの結果から、自主学習習慣が定着している生徒の割合を、平成 24 年度水準より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ② 基礎的・基本的な内容の定着を図り、自ら学ぶ態度・意欲の育成に努める。
「全国学力・学習状況調査」などの結果から、卒業までに基礎的・基本的な学習内容が定着したと認められる生徒の割合を、平成 24 年度の水準より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 授業力の向上のための研究授業の実施、学校内外の各種研修に参加しながら、わかりやすい授業を目指し教材研究と指導方法の工夫など研鑽に努める必要がある。
生徒や保護者アンケートの結果から、「わかりやすい授業を行っている」割合を平成 24 年度水準より増やす。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 自立的・主体的な力と豊かな情操を育て、共にはげみあう生徒の育成に努める。互いに認め合い、尊重し合える集団づくりを推進し、人権感覚豊かな生徒の育成に努める。
生徒や保護者アンケートの結果から、「違いを認め合い、個性を尊重する集団」の割合を平成 24 年度水準より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ② 生徒や保護者アンケートの結果から、「将来の進路や生き方について考えたことがあるか」の割合を平成 24 年度水準より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 生徒の規範意識の向上を目指す必要がある。そこで、生徒や保護者アンケートの結果から、「学校のきまりを守っている」の割合を平成 24 年度水準より増やす。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 基礎的・基本的な内容(体力・基本的生活習慣等)の定着を図り、自ら学ぶ態度・意欲の育成に努める。「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における結果から、各項目の割合を、平成 24 年度の水準より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ② 生徒や保護者アンケートの結果から、「いつも朝食を食べていますか」の項目について「時々食べる」「ほとんど食べない」と答える生徒の割合を平成 24 年度より減らす。
(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 生徒アンケートの結果から、家庭学習の時間を増やし、自主学習習慣が定着している生徒の割合を、平成26年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ② 基礎的・基本的な内容の定着を図り、自ら学ぶ態度・意欲の育成に努める。
「全国学力・学習状況調査」の結果から、基礎的・基本的な学習内容が定着したと認められる生徒の割合を、平成26年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 授業力の向上のための研究授業の実施、学校内外の各種研修に参加して、わかりやすい授業を目指し、教材研究と指導方法の工夫など研鑽に努める。
生徒や保護者アンケートの結果から、わかりやすい授業を行っている割合を平成 26 年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 自立的・主体的な力と豊かな情操を育て、共にはげみあう生徒の育成に努める。互いに認め合い、尊重し合える集団づくりを推進し、人権感覚豊かな生徒の育成に努める。
生徒や保護者アンケートの結果から、「学級は違いを認め合い、個性を尊重する集団となっている。」の割合を平成 26 年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ② 生徒アンケートの結果から、「将来の進路や生き方について考えたことがある。」の割合を平成 26 年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 生徒の規範意識の向上を目指す必要がある。生徒アンケートの結果から、「学校のきまりを守っている。」の割合を平成 26 年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 基礎的・基本的な内容（体力・基本的生活習慣等）の定着を図り、自ら学ぶ態度・意欲の育成に努める。「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における結果から、各項目の割合を、平成 26 年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- ② 生徒アンケートの結果から、「いつも朝食を食べていますか」の項目について「時々食べる」「ほとんど食べない」と答える生徒の割合を平成 26 年度より減らす
(カリキュラム改革関連)

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 生徒アンケートの結果から、家庭学習の時間を増やし自主学習習慣が定着している生徒の割合を、平成26年度より増やす。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 基礎的・基本的な内容の定着を図り、自ら学ぶ態度・意欲の育成に努める。 「全国学力・学習状況調査」の結果から、基礎的・基本的な学習内容が定着したと認められる生徒の割合を、平成26年度より増やす。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 授業力の向上のための研究授業の実施、学校内外の各種研修に参加して、わかりやすい授業を目指し、教材研究と指導方法の工夫など研鑽に努める。 生徒や保護者アンケートの結果から、わかりやすい授業を行っている割合を平成 26 年度より増やす。 (カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 自主学習習慣の確立】</p> <p>各教科で多種多様な教材を用い、生徒の意欲・関心を高め、学習する習慣を確立していく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>生徒に応じたプリントや確認テスト、実験・観察などの体験を取り入れることで、生徒の関心度を高める。</p>	
<p>取組内容②【区分 少人数授業の充実】</p> <p>国語科・英語科・数学科において実施計画に基づき基礎・基本の学力の定着に向けた学習活動に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>生徒の実用に応じ、計画的に実施していく。</p>	
<p>取組内容③【区分 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>各教科で、ITC や視覚教材を活用し、多面的に学習する環境を整える。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>PC・DVDなどのICT機器を積極的に活用し、生徒の学習意欲を向上させ、多角的な視点からの学習・理解度を高める。そのための教材研究や環境整備に努める。</p>	
<p>取組内容③【区分 各教科】</p> <p>教科項目別シートに記載</p> <hr/> <p>指標</p> <p>各教科で実施計画に基づき実践する。</p>	

大阪市立茨田北中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>① 自立的・主体的な力と豊かな情操を育て、共にはげみあう生徒の育成に努める。互いに認め合い、尊重し合える集団づくりを推進し、人権感覚豊かな生徒の育成に努める。生徒や保護者アンケートの結果から、「学級は違いを認め合い、個性を尊重する集団となっている。」の割合を平成 26 年度より増やす。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 生徒アンケートの結果から、「将来の進路や生き方について考えたことがある。」の割合を平成 26 年度より増やす。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 生徒の規範意識の向上を目指す必要がある。生徒アンケートの結果から、「学校のきまりを守っている。」の割合を平成 26 年度より増やす。 (カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【人権を尊重する教育の推進】</p> <p>自他を尊重する精神の育成に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>学校・学年行事・各学級での集団作りの取り組みを通して、道徳心・人権尊重の精神を養う。泊行事・校外学習・職場体験学習など、豊かな体験の充実に努め、道徳性を育成する。</p>	
<p>取組内容②【自律的生活態度を育成】</p> <p>自律的生活態度を育成し、互いに尊重し合う集団づくりに努める。</p>	
<p>指標</p> <p>学校行事・学年行事・生徒会・専門委員会活動の活性化を図り、積極的に参加させる。泊行事・校外学習・職場体験学習など、豊かな体験の充実に努める。</p>	
<p>取組内容③【キャリア教育の推進】</p> <p>キャリア教育を通して自分自身の進路を見つめ生き方について考えさせる。</p>	
<p>指標</p> <p>事前事後のアンケートを通し生徒の成長を考察する。</p>	
<p>取組内容④【生活習慣の定着】</p> <p>基本的な生活習慣の定着を図り、集団の規律を学ばせ、正しい判断のできる生徒の育成に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>集団生活のルールや時間を守れる生徒を育成し、規範意識を高める。 正しい言葉使いや挨拶などのできる生徒を育成し、基本的な生活習慣を確立する。 家庭・地域との連携を図り、茨田北中学校の生徒として自覚を持たせる。</p>	

大阪市立茨田北中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>① 基礎的・基本的な内容（体力・基本的な生活習慣等）の定着を図り、自ら学ぶ態度・意欲の育成に努める。「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における結果から、各項目の割合を、平成 26 年度より増やす。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 生徒アンケートの結果から、「いつも朝食を食べていますか」の項目について「時々食べる」「ほとんど食べない」と答える生徒の割合を平成 26 年度より減らす。 (カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【健康な生活習慣の確立】</p> <p>保健だより等を発行し、食育や体力向上を通して健康的な生活習慣を身に付ける。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>健康診断後の受診率を高める。(う歯・視力)</p> <p>保健だより等を通して体力向上や食に対する意識を高める。</p> <p>アンケートで「健康に気をつけている」の割合を増加させる。</p>	
<p>取組内容②【教育環境の整備】</p> <p>環境づくりと安全・美化に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>環境緑化と花づくりに努め、環境問題について考える。</p>	

大阪市立茨田北中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質と指導力の向上に努める。 (マネジメント改革関連) ・特別支援教育の充実をはかる。 (カリキュラム改革関連) ・主体的に考え行動できる生徒の育成をはかる。 (カリキュラム改革関連) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【教員の研修】</p> <p>教職員の資質と指導力の向上に努める。 (マネジメント改革関連)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>生活指導・特別支援・評価法などの課題について、計画的に実施する。 毎月授業公開週間を設け、教職員相互の授業研究・研修を促す。 新転任研修・新任研修・教務・情報教育等の課題研修を行い、校内共通確認をはかる。</p>	
<p>取組内容②【特別支援教育の充実】</p> <p>全校生徒に目を向け、支援を必要とする生徒の全校的関わりに努める。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>支援が必要とされる生徒及び保護者の意向をくみとる。 本校独自の体制作りを行う。</p>	
<p>取組内容③【その他】学年運営</p> <p>自己実現に向けて、自己の確立を図り、自ら考え行動できる学年集団の育成。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>行事等を通じて、主体的に取り組む姿勢を養い自らの役割を考え果たせる生徒を育てる。 人を思いやり、集団の中で積極的に行動できる心豊かな生徒を育てる。 あいさつが進んででき、時間を守り、ルールを大切にする規範意識を育成する。 進路学習を中心に、自己の特性に合った進路を選択し、それを実現できる学力を養う。</p>	

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

平成26年度 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	<p>生徒間のもめごとでトラブルが発生した。加害生徒に対しては担任と学年担当教員、生活指導担当教員・校長・教頭が指導に当たり、こども相談センターと連携し保護者への説明により解決している。今後も暴力行為を起こさせない生徒指導と、保護者の協力を推進していく。</p>
② いじめの状況等	<p>いじめになる前に対応しているので、認知件数は0である。</p> <p>① 全校・学年集会、学級指導などでの声かけ・生徒からの訴えによる聞き取り。</p> <p>② 「いじめに関するアンケート」・教育相談で実態の把握。</p> <p>③ 生徒の交友関係の状況を様々な場面をとおして把握。</p> <p>以上、教職員が共通理解を図ることで、いじめを生じさせない学校経営を実践している。</p>
③ 中学校における不登校の状況等	<p>「小学校から不登校が続いている」「親子関係で不登校になった」など原因は様々であるが、不登校になった生徒がいる。担任が中心になり指導することで、こども相談センター中央通所ルーム・サテライトへの登校を含め、学校へ登校できるようになった生徒がいる。生徒のおかれている状況など把握に努め、粘り強く地道に生徒・保護者へ働きかけている。</p>